

第1回 吹田市総合計画審議会 議事要旨

■日 時：令和4年（2022年）11月21日（月）18：00～20：06

■場 所：メイシアター集会室

■出席者：別紙「出席状況一覧」のとおり

■傍聴人：1人

■資料：

資料1 吹田市総合計画審議会関連資料

資料1-1 吹田市総合計画審議会委員名簿

資料1-2 吹田市総合計画審議会規則

資料1-3 吹田市審議会等の設置及び運営に関する指針

資料1-4 吹田市総合計画審議会の運営について

資料1-5 吹田市総合計画審議会の傍聴に関する取扱い基準

資料1-6 吹田市総合計画審議会部会構成（案）

資料2 第4次総合計画

資料3 吹田市第4次総合計画中間見直しの基本方針について（令和4年3月25日
政策会議資料）

資料4 第4次総合計画見直し 策定体制等

資料5 第4次総合計画見直し 策定スケジュール・本日の到達点

資料6 第4次総合計画 進捗状況報告

資料7 中核市移行による 取組及び 効果

資料8 第4次総合計画 人口推計の改訂

資料9 市を取り巻く社会情勢の主な変化

資料10 市民参画・周知の取組報告

資料11-1 第4次総合計画基本計画 改訂版 素案

資料11-2 第4次総合計画基本計画改訂版素案（概要）

参考資料 吹田市の特徴（データ集）

■議事要旨

1. 委嘱状の交付

2. 市長挨拶

3. 委員紹介

4. 市の出席者紹介

5. 定足確認

6. 会長及び副会長の選任

北村委員が会長に、島委員が副会長に選任された。

7. 会長及び副会長挨拶

8. 審議会の傍聴に関する取扱い基準について

審議会の傍聴に関する取扱い基準について承認された。

9. 諮問

第4次総合計画改訂版素案について市長から審議会へ諮問された。

10. 審議会の運営

会議録の公表、並びに部会の設置について承認された。

11. 報告案件

【報告】(1)～(8)(資料2～10及び参考資料)

事務局：(資料説明)

会長：

多岐にわたった内容で、詳細については12月の各部会で御意見をいただきたいと思うが、この時点で不明点や意見等あれば質問をお受けしたい。

A委員：

大綱の中でS、A、B、Cの指標の評価があったかと思うが、行政が総合計画に紐づいて行った施策のパフォーマンスに対する評価のみが並んでいる、という理解で合っているか。

事務局：

そのとおりである。例えば現行計画の冊子61ページの「大綱6 都市形成」であれば、「6-1-1 まちづくりのルール策定地区数」では75地区を目標値とし、策定時の52地区からどれだけ近づいたかをS、A、B、Cで評価するというイメージで、各担当部局が自己評価している。施策指標の一覧を77ページ以降にまとめており、施策指標の考え方などもこちらで確認できるため参考にしてもらいたい。

A委員：

72ページにあるような市民意識評価は入っていないということか。

事務局：

そのとおりである。

B委員：

資料10の6ページについて、市民と市職員のアンケート結果の比較評価をしているが、

何のために比較しているのか。目的を教えてください。

事務局：

市職員からの評価との比較をすることで、市民意識との乖離を確認したいと考えたもの。乖離がある場合は意識の差がなぜあるのかを検討していく材料としたいと考えている。結果として、評価が高い項目など、傾向は似たような結果となったが、市職員は市の行っている取組に対して思いがあるため、市職員の評価が高く出る結果となったと考えている。

会長：

様々なデータなどを基に今後見直し作業を行ってほしいと思う。

12. 議題案件

【議題】(1) 第4次総合計画改訂版素案(資料11-1、11-2)

事務局：(資料説明)

会長：

非常に多岐にわたっており、要約はしてもらったが、内容としてはかなり幅広いものとなっている。具体的には12月の部会で作業してもらうが、全体に対する質問等があればお受けしたい。

C委員：

大綱6の都市形成の施策に「良好な住環境の形成」とあるが、人口減につながってもいけないところだが、一定の開発抑制の考えも含まれているのか。開発ばかりを進めると、良好な住環境の形成というわけにはいかなくなると思うので、どう考えているか教えてもらいたい。

事務局：

現行計画の冊子61ページに関する指摘かと思うが、現行は「良好な住環境の形成を図るため、開発・建築の指導を行う」という表現に留まっている。今回の見直しで総合計画にそこまでのことを書き込むのかどうかを部会で議論いただくべきかもしれないが、現状はそこまでの方向性を検討していない。

会長：

総合計画と政策領域ごとの個別計画との兼ね合いがあり、総合計画には細かく書き込むのではなく、大まかな方向性について書いてある。部会においては、この方向性も総合計画に書き込む必要があるのではないかと議論することはあり得るかと思う。

第1回審議会ということで、委員の皆様から、第4次総合計画の見直しに関しそれぞれの思いや御意見についての発言を1分程度でお願いしたいと思う。

D委員：

前回の計画策定に関わり、今回は見直しということで、年月が経ち社会情勢の変化に合わせてどのように見直していくことができるか、真剣に議論していきたいと思っている。

E 委員：

詳細に分かりやすい説明で吹田市の実情がよく分かった。今回新しく施策に入った「公衆衛生の向上」について主に担当することになる。保健所ができたことで市民の中で衛生管理の意識が定着したのではないかという説明があったが、実際には短期間で意識の向上は難しいかと思うし、業務の連携という部分にも課題が出てきているかと思う。行政の質の向上と煩雑さという観点から、行政運営をどのように高めていけるのか、御意見をお聞きしながら部会で議論できたらと思う。

F 委員：

環境分野で参加させていただいているが、SDGsに取り組むということで、改訂版素案の政策ごとにグローバルゴールが示されている。SDGsでは環境、経済、社会の統合が進むことを大きく期待している。その中で、大綱5の環境であるが、SDGsのゴール1と16が欠けてしまっている。環境問題は貧困層に影響が大きく及ぶが、誰も取り残さないという視点が重要視されている中でその部分が欠けてしまっている。そういうところの統合感をどのようにマネジメントしていくかがこの審議会の場で重要かと思うので、皆さんと議論していきたい。

G 委員：

そもそも計画期間がなぜ10年なのかという大きな疑問がある。10年先を読むのは今時難しい。また市長から諮問を受けたということは最終的に市長に答えを返すということかと思うが、その後市長は修正ができるという状況なのか。

会長：

最終的に議会にも諮ることになるが、後ほどまとめて説明させていただく。

G 委員：

市長の任期4年と総合計画の10年という期間がリンクしていないため、市長の意向が反映しづらいのではないかと。その方がよいのかもしれないが、この点が少し疑問であった。

H 委員：

こういう場で政策や提案をさせていただくのは初めてで緊張している。今、大学でSDGsや公共に焦点を当てて政策を提案している。この場でも生かせるようにできる限り協力していきたい。

I 委員：

私は留学生だが、大阪に来て、北摂が好きなので、吹田市の持続可能な未来に向けて政策づくりに参加したいと思った。また、若い世代かつ環境分野が専門なので、両方の目線で政策づくりに貢献したいと思う。

C 委員：

阪神・淡路大震災の関係で兵庫県へ災害復旧に1年間行っていたということもあり、個人的な思いもあるが、西宮市、尼崎市、豊中市、吹田市の隣接中核市4市のNATSの取組に

ついてももう少し検討してもらえたらと思う。

B 委員：

私は、自分自身が子育て中で親も高齢になってきたという状況の中、吹田市も少子高齢化が進むことがデータ上も示されており、子育てや学び、高齢となったときにいかに幸せな生活を送ることができるか、という視点を今回の総合計画の見直しに反映できたらと思って審議会委員に応募した。皆さんと議論を進めていきたい。

J 委員：

細かい議論は各部会で行われればよいと思うが、全体の審議会において確認したいことは2つある。まず、この10年の中で社会の状況も踏まえて吹田市に吹く風が変わったかどうかである。変わったのであれば方向を変えなくてはならない。風向きが変わったかどうかを議論するのが審議会において重要であると思う。もう1つは、状況の認識を合わせるということが重要であると思う。各部会がいろいろな方向を向いて議論を進めるのではなく、どこからどういう風が吹いているのかという状況の認識を共有して施策を作っていくための場がこの審議会だと思う。この2つを基に大きな方向性を出して、総合計画を見直していくということが必要かと思う。現状としては、市民と市職員の評価に乖離があるため、計画の中で方向性を合わせていくのが重要なのではないかと感じた。

A 委員：

たくさんの資料があり頭が混乱しそうだが、その中でも見失ってはいけないと思うのは、総合計画がめざすものは市民のよい生活、幸せだということ。ウェルビーイングという言葉があるが、SDGsが大事にしている柱である。総合的な観点から物事を見ていくのが大事であり、それと同時に、生きた総合計画であるということが重要であると思う。総合計画の策定に各地で関わりながらファシリテーションしている知り合いがいるが、彼に聞くと、総合計画は策定してもなかなか活かされていない、と言っている。今日、後藤市長が言われたように、PDCAを回しながら各政策を総合化していくというのはよいと思う。変えるべきところは変える必要があるが、変えてはいけないものもある。その基準がウェルビーイングでありSDGsであると思うので、その辺りを把握していきたい。私は市民自治・市民協働を専門にしているので市民の目線を大事にしていきたい。データから見えてきた市職員の意識との乖離を追っていきながら、何をしたらよいかを考えていきたい。

K 委員：

今まで吹田市の社会福祉協議会で、吹田市の地域福祉計画や社協の地域福祉活動計画には携わってきたが、総合計画の存在を今回初めて知ったという状況である。福祉の面においても、2年半から3年の間にコロナの影響で困窮する市民からの相談が社会福祉協議会にも多数あり、地域においても高齢者、障がい者、若い母親から子供に至るまで対面での活動ができなかった、という時期を過ごしてきた。このような点が総合計画にも反映できればと思うし、また意見を伺いながら進めていきたい。

L 委員：

PTA協議会の役員や会員は吹田市の幼稚園から小・中学校に通う子供たちの保護者で構成されており、自分も小・中学生の保護者である。その視点から学校教育や地域との関わり

方について微力ながら貢献できればと考えている。

M 委員：

アジェンダ 21 は、持続可能な社会づくりを目標に地域に作られた団体である。カーボンニュートラルの 2030 年の吹田市目標は国の目標より高い目標だと聞いている。このあたりを今後の部会で詰めていきたい。

N 委員：

体育連盟としては、生涯スポーツということではいろいろな取組を行っている。また、個人的には自治会や民生委員もしている。自治会加入率低下の理由やひとり暮らしの高齢者に関する問題など、地域に関することについて現場の目線で徹底的に話をしていきたい。

O 委員：

改訂版素案にも記載のあった NATS の構成市である西宮市として参加している。平成 20 年に中核市となった先輩市としてということと呼んでいただいた。10 年以上前のことであるため先輩市としての意見ができるか分からないが、西宮市も住宅都市で、吹田市と似ている部分が多い。吹田市は現在人口が増えており、4 次総計期間は人口が増えその先は減少する推計となっている。西宮市も阪神・淡路大震災以降、住宅開発で人口が大きく増えたが、平成 28 年以降は減少に転じている。住みたい街ランキングで常に上位というイメージはあるものの、地域格差が課題となっており、吹田市でも今後同様の課題が顕著になってくるのではないかと思う。本市の実例や視点で何かアドバイスができればと思う。

副会長：

皆さんの発言を集約し整理する役割を求められていると思うが、それは難しいため気づいたことを少しお伝えしたい。まず、総合計画を策定した当初の予測と大きく異なる現状があり、想像だにしない様々な動きがあった。予測困難な中で、残り 5 年をどう想定していくのか。感染症の問題、平和の問題があるが、教員の視点から見て教育領域でも状況が激変している。それらに対して、当初計画の修正で事足りるのか、新たな視点を踏まえたことを打ち出すことも必要なのではないかということも考えていきたい。

2 つ目に、中核市が自治体として果たす役割、府と国との分担の整理がうまくできているのかどうか。改めて吹田市が中核市として果たす役割という観点からの見直し、整理も必要だと教育に関わりながら強く思っている。

3 つ目に、総合計画は市が実施する計画ではあるものの、策定当時から言われていたこととして、住民が吹田市をつくる、行政が政策として吹田市をつくる、この 2 つがかみ合わないとならないということ。サービスを受ける側の市民というだけではなく、共に吹田市をつくるという関係で何ができるかをかなり強く意識していたように思う。今一層そのように思うが、全体としてはその論調が後退していることを心配しており指摘をしておきたい。部門ごとの計画を総合化するのがこの審議会のミッションであるということだが、総合化とは何を意味しているのか、どのような方向性を出すのが総合化となるのか、抽象的ではあるがそういう問題意識を持っておきたい。

会長：

私からは 2 点話をしておきたい。G 委員からの指摘は総合計画とは何かということだっ

たかと思うが、以前は法令でどのまちも総合計画を作る必要があったが、今は法律的には作る必要はなくなった。先の予測は難しく、その場で適切に対応した方がよいのではないかと
いうことで、総合計画を作らない市も中核市レベルでもある。それでも本市は作る。10年
間を見とおすのは確かに難しいため、ここで中間見直しを入れている。

また、市長のマニフェストや議会の意向との違いについては、我々は政治的理念ではなく
社会経済的観点や、吹田市の自然環境、地理的環境を踏まえて、どういう方向性があり得る
のかを持っておくべきと、第4次総合計画の策定当時に整理していた。要するに、真っ暗な
海に海図も持たず航海に出ていくのではなく、少なくともコンパスぐらいは持っておきま
しょう、ということで、このまちの方向性を考えていくのが、総合計画であるという位置づ
けで御認識いただきたい。J委員の意見にあったように、風向きが変われば修正をしていく
ということもある。皆さんはそれぞれの分野のスペシャリストではあるが、全体の中での位
置づけがどうなるのかということを考えていただきたい。自分の言ったことを書き込ませ
ようというのではなく、全体の中で自身の問題意識が重要であるか、入れるべきかどうかと
いうことを考えていただきたい。皆さんとの部会での議論を楽しみにしている。

春藤副市長：

本日は大変お忙しいなか御出席いただき感謝申し上げます。第3次総合計画から20年ほど
総合計画に関わっている。10年先は確かに見とおせないが、少子化対策など長期を見とお
さないといけないことがある。予算をかければすぐに実行できることだけではなく着実に
やっていかないといけないこともある。委員からの発言にもあった都市形成についてもす
ぐにはできない。そういう中で、皆さんから御意見をいただきながら、コロナなどいろい
ろなことを乗り越えていきながら、よいまちづくりをしていきたい。

2年前に中核市になり、新型コロナウイルス感染症対策でも職員が頑張っ
て対応した。中核市になったことで市民に貢献できたと思う。見えない部分でも職員は頑
張っているが、総合計画見直しの答申をいただいた後も、皆様にはいわば監査人として
見守っていただきながら、期待を超えた取組ができるように努力していきたいと考えてい
るので、よろしく願いしたい。

辰谷副市長：

大綱5、6、7を主に担当している。吹田市に着任してから5年経ったが、前回の総
合計画は終盤に参加しただけのため、このような形で策定に参加して進めていくのは初
めてである。皆様の御協力のもと、本市の全体の向上、まちづくりについてよろしく
お願いしたい。

13.その他

事務局：

次回以降の審議会開催予定について事務連絡を行った。

以上

出席状況一覧

第1回吹田市総合計画審議会 令和4年（2022年）11月21日（月）午後6時 開催

（選出区分毎の五十音順・敬称略）

	号	区分	分野	所属・役職	氏名	出欠
1	1号	学識経験者	行財政 社会保障財政	甲南大学経済学部 教授	足立 泰美	欠席
2	1号	学識経験者	福祉	梅花女子大学心理こども学部 教授	井元 真澄	出席
3	1号	学識経験者	行政経営	大阪大学大学院法学研究科 教授	北村 亘	出席
4	1号	学識経験者	市民自治	関西大学社会学部 教授	草郷 孝好	出席
5	1号	学識経験者	安心安全	関西大学社会安全学部 教授	越山 健治	出席
6	1号	学識経験者	教育	千里金蘭大学生生活科学部 教授	島 善信	出席
7	1号	学識経験者	保健医療	大阪大学大学院医学系研究科 特任准教授	野口 緑	出席
8	1号	学識経験者	環境	大阪大学大学院工学研究科 助教	松井 孝典	出席
9	1号	学識経験者	DX	大和大学理工学部 教授	松浦 敏雄	出席
10	2号	公募市民	/	—	安藤 義貴	出席
11	2号	公募市民		—	周 月茹	出席
12	2号	公募市民		—	藤村 隆太郎	出席
13	2号	公募市民		—	山中 拓也	出席
14	3号	市内公共的 団体等の代表者	/	吹田市社会福祉協議会 会長	櫻井 和子	出席
15	3号	市内公共的 団体等の代表者	/	吹田商工会議所 会頭	柴田 仁	欠席
16	3号	市内公共的 団体等の代表者	/	吹田市医師会 副会長	相馬 孝	欠席
17	3号	市内公共的 団体等の代表者	/	吹田市PTA協議会 副会長	高田 耕平	出席
18	3号	市内公共的 団体等の代表者	/	アジェンダ21すいた 副会長	福井 一彦	出席
19	3号	市内公共的 団体等の代表者	/	吹田市社会体育団体連絡会 幹事	矢野 哲也	出席
20	4号	関係行政機関	/	西宮市 政策局 政策総括室 政策推進課 課長	堀越 陽子	出席

選出区分の号は、吹田市総合計画審議会規則第3条第2項の各号による。

吹田市 出席者

事務局	後藤市長、春藤副市長、辰谷副市長
	今峰行政経営部長、企画財政室：伊藤室長、吉村参事、森岡主幹、清家主査、山本主任
	委託事業者